
製造業DX化ビジョン専門委員会(SMDX) 2022年度活動計画

委員長: 松田 三知子 (日本規格協会)

※Smart Manufacturing for Digital Transformation

製造業DX化ビジョン専門委員会(SMDX)活動計画(1)

※Smart Manufacturing for Digital Transformation

2022年4月から3年間の活動期間中に予定している活動計画の全体概要を示す。

1. 背景

2021年秋、「IEC/ISO等の国際規格に加え、デファクトに成り得るコンソーシアム規格も含めたスマートマニファクチャリング(SM)関連の規格を対象とする技術マップを作成し、企業の技術戦略立案を支援する」ために、研究会が設置された。その後、技術マップ作成に拘らず、様々な関連情報を有用な形で提供すると活動範囲を拡げ、2022年4月より専門委員会とし活動を開始する。

2. 活動目的

SM関連の技術トピックスや規格類などの現状・動向・展望などを調査し、企業、特に製造業の今後のDX化を含めた技術戦略をサポートするための情報を、有用な形でまとめて提供する。

3. 活動内容

2022年度: SM関係の現状と技術動向調査

2023年度: さらなる調査の継続と調査結果のまとめ方についての検討

2024年度: 調査結果とDX化ビジョンに関する討議内容の取りまとめ

4. 期待する成果

- ・ 関連技術などの現状と動向の全体俯瞰的な整理ができる。
- ・ 各企業の現状認識(位置取り、強みと弱みの認識など)のためのツールを与える。
- ・ 将来に向けて、企業の取るべき行動を考える参考になる情報を与えることで、技術戦略をサポートする。

製造業DX化ビジョン専門委員会(SMDX)活動計画(2)

※Smart Manufacturing for Digital Transformation

委員会発足初年度である2022年度は、主にスマートマニファクチャリング(SM)関係の現状と技術動向調査を計画している。

1. 委員会の開催

6月以降, 2か月に1回程度開催予定(年5, 6回)

2. 調査内容

- スマートマニファクチャリング関連の全体的現状や動向の把握のための調査
- スマートマニファクチャリングの推進に必要な共通基盤関連の調査
- 関連技術(既存技術, 開発中技術, 今後開発が必要な技術など)に関する調査
- 参照アーキテクチャなど調査結果のまとめにおいて拠り所となるものの調査

3. 調査方法

- 委員会の委員による分担調査
- 当該項目に詳しい専門家をお願いしてのレクチャーと討議(公開のセミナー形式)
専門家のレクチャーをお願いする項目例:
 - ・インダストリー4.0とスマートマニファクチャリング(全体概観)
 - ・サイバーフィジカルシステム(CPS)とデジタルツイン
 - ・参照アーキテクチャ関連(RAMI4.0とStandard Mapなど)
 - ・アセット管理シェル(AAS)
 - ・データ連携基盤
- 外部グループとの共同